

震災前よりも、
もっともっと魅力的なまちにしよう！

ここにしかない。ここでしかできない。

世界に
近いまち

セカチカから あびら教育プランへ



学びから挑戦へ

幼いころから遊びの中でエネルギーを培う「遊び」。自ら考え、夢を見つける「学び」。夢を実現・表現の手助けとなる「挑戦」。「日本で一番世界に近いまちプロジェクト」(セカチカ)は3つの事業をつなげて、「学びから挑戦へ」をキーワードに、一人ひとりが夢の実現、新たな世界を築く事業を展開してきました。

その理念を引き継ぎ、新たな教育プログラム「あびら教育プラン」をスタート。ここにしかない、ここでしかできない、そんな取り組みを行っています。

フェーズ1 インプット		フェーズ2 アウトプット
遊び(遊育)	学び(探求学習等)	挑戦(実現・表現)
幼児～小学校高学年	小学校高学年～中学生	中学生

各事業の展開

遊び

「もっともっと」遊びたい。そんな子どもの願いを叶えるフィールドを提供。子どもたち自らが遊びを生み出す環境を創出。

学び

「わくわく」しながら毎日を通じさせるようなプログラムを提供。国内外の方と交流する機会の創出や、興味の種を蒔く「探求学習」の場を提供。

挑戦

インプットプログラム「遊び」「学び」を経て、気づいた夢・目標。それらを実現・表現するためのABIRA TALKSやワクワク研究所をはじめとしたアウトプットプログラムを提供。

新たな世界を築く

新たな世界とは、これまで知らなかった新しい領域です。立地を生かした事業や、学びと挑戦による体験を積み重ねることにより、より深い経験という宝物になります。それが礎となり、子どもの将来性・可能性を大きな世界へと広げていきます。

ENTRANCE 「未来への入り口」

「ENTRANCE」は、改修した空き店舗を利用した、コミュニティスペースです。

設置の目的

復興ボランティア活動が進む中で、センターとして安平町の未来を考えるようになり、「人が集まれる場所」「何かを創造し羽ばたいて行ける場所」を創り出したいとの思いから作られました。

名前の由来

場所は目の前にJR追分駅、地区でも人通りが多かった場所の一つです。駅前として“安平町の入り口”、そして“未来に羽ばたく入り口(きっかけ)”となることを期待して命名されています。

「ENTRANCE」の動きと地域の人たちの反応

ENTRANCEが作られていく過程で、強い思いに共感した人の輪が次第に広がっていきました。町内外から寄せられた多くの期待は、クラウドファンディングを通じてJR追分駅前で結実しました。

その後も励ましの声や昼食の差し入れ、中には使用可能な家具を提供してくださる方まであり、人々の温かい思いが支えとなり、2019年11月にオープンしました。

「ENTRANCE」が描く未来

将来を担う子どもたちが、「ENTRANCE」で学び経験したことを糧に、自分たちの夢を抱いて成長してくれることを願っています。



Interview

ENTRANCEを運営する方に聞きました

町民が情熱をもって集える場所。
そして未来の安平町に向かって。
～安平町のこれから。未来をつくるエントランス～

地震が起きてすぐに北海道に来ました。その足で安平町に入り、災害・復興両ボランティア活動をしていく中で「ありがとう」という温かい言葉と笑顔に感動したんです。

「そんな言葉と笑顔が溢れるまち」だからこそ移住を決め、人のために活動を続けようと思いました。

ENTRANCEは、みんなの憩いの場になれば良くなって。そうなるためにも、みんなが興味を持てるような仕組み作りや運営に全力で臨みたいですよ！

一般社団法人
安平町復興ボランティアセンター
台さん

(この記事は2020年初版発行時のものです。)

